

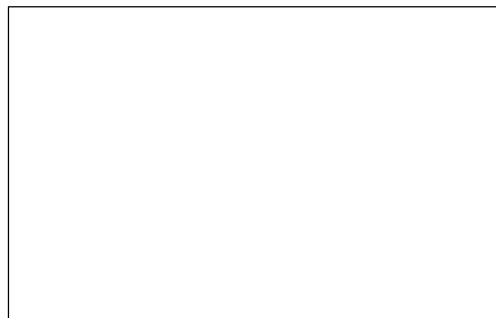
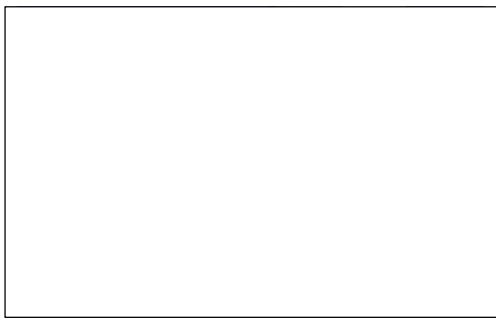
1 2. 滝の茶屋駅付近の歴史と見どころ

<滝の茶屋と垂水の地名について>

前号の塩屋駅の説明で、ジェームス山というのは、ジェームス氏が開いたというこの地域の通称であるとの説明がありました。このジェームス山が海に迫っているこの地には、いくつかの滝が直接海に流れ落ちていたといいます。しかもこの水は船乗りが重宝していたと評判でありました。今となっては滝らしいものを見つけることは困難ですが、滝の茶屋という駅名にあるように古くはここを通る旧山陽道に茶屋もあり、滝もあったと言われていました。

駅前には写真にあるように、狭く山側のみには出口があり、商店街が駅の東側に山に向かって小さく続いており、駅のまわりには住宅地が広がっています。駅前の広場もなく、駅らしい雰囲気はほとんどなく、大変狭い駅となっています。また駅の下には国道2号線やJR山陽本線が通り、平磯の埋め立てた公園が広がっており、通称であるジェームス山の中腹部に駅があることより、下りのホームよりの眺めは、大阪湾や淡路島などを見ることができ、素晴らしいものとなっています。

万葉集の巻八の冒頭にも「岩ばしる垂水の上のさわらびのもえいづる春になりにけるかも」（志貴皇子：しきのみこ）という有名な春になったことをことほぐ御歌が載せられています。ここでうたわれている垂水すなわち滝は、この地域では広く知られていたといい、このように、滝のあるところとして、この地域を「垂水」と呼ぶようになったと言伝えられています。（杉岡良吉記）



山陽電車 HP より抜粋



HP 「滝の茶屋 海に見える駅」より抜粋